

ドクター通信

②

高齢者と結核

市立総合病院第一内科部長 吉田 順一

結核の根絶

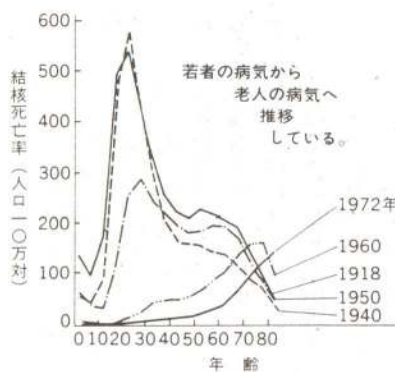
およそ百年後

第二次世界大戦後、結核の治療薬が次々と発見され、さらに

最近では「リファンピシン」という極めて強力な薬が加わって、新しく発見された患者さんのほとんどが薬だけで治るようになってきました。その上、これまで三年から五年は必要とされていた結核の治療期間も、合併症の無い限り二年ぐらいまで縮めることが可能になりました。そのためか、結核は昔の病気で、今ではもう問題にするほどの病気ではないと思っている方も少なくありません。

大館保健所管内の最近数年間の結核登録状態をみると、総登録者数は百七十人前後、毎年の新登録者も五十人前後で、ほぼ横ばいとなっています。世界で一番結核患者の少なくなったオランダでは、四十年後には結核を根絶できるといっています。しかし日本では、まだ毎年六万人近くの方が新しく保健所に登録

され、四千人もの人々が結核で亡くなっています。我が国で結核を根絶するには、まだ百年はかかると思われています。



結核菌は眠っている

結核は伝染病ですから、患者を完全に治すことが次の患者の発生を防ぎ、やがては根絶することも可能となってきます。かつては若者の病気といわれていた結核ですが、今は成人病なみに中高年の、特に五十歳以上の人々に多くなりました。その中でも七十代の方が六万人のうち二万人を占めます。

戦前の日本人は、動物性たんぱく質の不足などから抵抗力が弱く、感染するとたちまちのうちに発病し、若くして亡くなる方も多くみられました。しかし今は、栄養は良く、戦後生まれの人はBCG接種である程度の免疫力を持っているなど、たとえ少しぐらいの結核菌を吸い込んでも、そう簡単には発病しなくなりませんでした。

ではお年寄りはどうでしょう？ 高齢発病者の結核菌は、若いころに感染した菌といわれています。その時の発病の有無にかかわらず、その菌がどこか身体の中で形を変えて眠っており、年をとって体力が衰えた時、再びその結核菌が目覚まして活動を始めるのがほとんどです。ですから、若いころに結核に感染した方は、自分の身体のどこかに結核菌が眠っているという自覚が必要です。その年代はだいたい五十代以上です。

咳や痰が二週間以上続く場合は、単に風邪と考えずに専門医の診断を受けることをお勧めします。特に結核の既往のある方は、再燃の可能性もありますから積極的に受診することが必要です。現在他の医療機関で診療中の方は、主治医と相談のうえ、紹介状や胸部写真を持参していただければ、診断に大変役立ちますのでよろしく願います。

「非核・平和」の標語

入選作品決定

市民総参加での「平和なまちづくり」をより進めるため、皆さんから非核・平和を願う標語を募集したところ、二百五十二通の応募がありました。選考の結果、次の作品が入選となりましたので紹介します。

特選

『大文字 非核・平和の金字塔』

花岡町猫鼻3-3 程塚 敏明さん

入選

「核のない 緑の地球よ いつまでも」

田町63-2 務安 清山さん

「七万の 心一つに 非核の誓い」

御成町1丁目19-19 佐藤 守さん

「なくそうよ 平和のために 核兵器」

成章中学校3年 高松 亨さん

私道整備第一号 (東台四丁目)

五月二十日、今年度から実施されている私道整備事業によつて、東台四丁目内の私道(延長約三十詰)が第一号として整備完了しました。

「以前は砂利道で側溝も壊れてしょうがなかったんです。それで、近所の五軒で相談して去年から五千円ずつ積み立てを始めました。三年はかかるなと思っていたらこの事業でしよう。すぐ手続きしましたよ。三分の二補助ですから助かりましたし、

